長期留学・海外インターンシップチャレンジ奨学金　報告書

2025 年 6 月 26 日

国際経営学部国際経営学科 3 年

菊地陽子

はじめに

私は 2024 年 9 月から 2025 年 5 月までの 9 か月間、イギリスのサセックス大学にて交換留学を経験しました。本報告書では、留学中に取り組んだ学習内容、現地での生活やボランティア活動、そしてこの経験を通じて得た学びについてご報告いたします。

このような貴重な留学の機会を得られたのは、多くの方々のご支援とご尽力のおかげです。ここに改めて、支援をくださったすべての方々に心より感謝申し上げます。

学習について

サセックス大学（University of Sussex）は、ロンドンから南へ電車で約 1 時間のブライトン近郊に位置する国立大学で、自然豊かなキャンパス環境と国際色豊かな学生構成が特徴で、特に開発学において高い評価を受けています。私は同大学の Business School に所属し、マネジメント、ファイナンス、マーケティング分野の授業を履修しました。

授業は週 2 回、1 コマにつき 2 時間のレクチャー（主に理論の紹介）と、1 時間のワークショップやセミナー（グループワークや実践的な問題演習）で構成されていました。レクチャーの多くは録画されており、字幕付きで後から視聴することができたため、聞き取れなかった部分の復習に非常に役立ちまし

た。

留学期間中、私は前期・後期それぞれ４科目ずつ、計８科目の授業を履修しました。前期には、「Accounting for Managers」「Managing Projects and Technologies for Business Students」「Principles of Finance」「The Changing World of Work」の４科目を履修しました。後期では、「Advertising and Media Planning」「Corporate and International Finance」「International Business Strategy」「International Marketing」の４科目を履修しました。

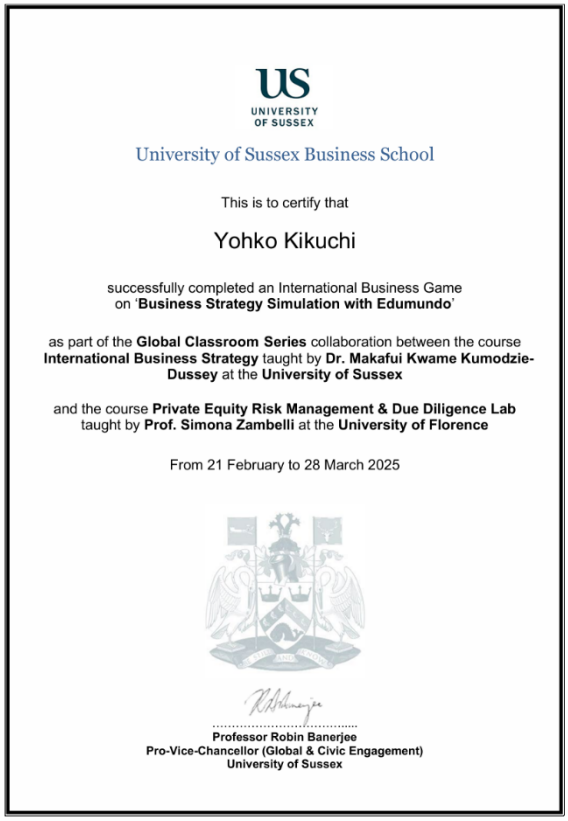
前期では特に「Accounting for Managers」と「Managing Projects and Technologies for Business Students」が印象に残っています。「Accounting for Managers」では、企業の意思決定に必要な財務的視点を幅広く学びました。例えば、財務諸表分析や投資評価、意思決定における関連原価分析といったテーマがありました。特に、Payoff Table を作成し、Regret Value や Payoff × Probability を用いて期待値（Optimum Expected Value）を計算し、意思決定者のリスク選好に応じて選択肢を決定するというプロセスが非常に興味深く感じられました。また、成績の 25%を占める Coursework では、イギリスの上場企業を対象に財務分析を行い、投資銀行のアナリストの立場から投資に関するアドバイスをまとめる課題に取り組みました。定量的な分析力と論理的な構成力が求められ、実務に近い経験ができたと感じています。

「Managing Projects and Technologies for Business Students」では、プロジェクトマネジメントのフレームワークや手法について学びました。成績の 70%を占める最終課題では、自身でプロジェクトプランを構築し、授業で紹介された手法を実際に活用する機会が与えられました。中でも、プロジェクトの成果物（deliverables）の依存関係（dependencies）を整理し、WBS（Work

Breakdown Structure）やガントチャートを用いてタスクを分解し、スケジュールの可視化を行うことで、計画段階におけるスケジュール管理や進捗把握の重要性を体系的に理解することができ、実務にも直結する知識として非常に有益でした。

後期で特に印象に残ったのは「International Business Strategy」と「International Marketing」です。「International Business Strategy」では、グループによるシミュレーションゲームを通して、国際企業の戦略的意思決定を体験しました。市場環境や競合他社の動向を分析しながら、新規進出国の選定、価格設定、資源配分、マーケティング戦略などを策定するプロセスは、教科書での学びを実践に結びつける貴重な経験となりました。毎週実際の企業経営に近い形での議論が繰り返され、チーム内では時に口論やストレスも生じました。この体験を通じて、チームワークや企業経営、国際ビジネスの複雑さを実感しました。「International Marketing」は、これまで受けた授業の中で最も興味深く、印象深いものでした。現代のグローバル環境におけるマーケティング戦略を、STP、PESTEL 分析、Porter’s Five Forces、Value Chain、Hofstede’s Cultural Dimensions などの理論をもとに学びました。特に実際の国際マーケティングキャンペーンを数多く分析したことで、理論と実務の橋渡しができたと感じています。先生のスライドには写真や図が豊富に使われており、視覚的にも理解しやすく、また毎回のワークショップでは全員に発言の機会があり、常に主体的に学ぶ姿勢が求められました。さらに印象的だったのは、従来の理論をそのまま適用するのではなく、それらの限界を批判的に検討し、代替フレームワークを模索するというアプローチです。課題として取り組んだグループプレゼンテーションでは、自ら文献を調査し、SWOT 分析や Porter’s Five Forces、Hofstede’s Cultural Dimensions の弱点を考察

し、それに代わる枠組みの提案を行いました。このプロセスを通じて、単なる理論の受容にとどまらず、より深い洞察と柔軟な思考力を養うことができました。



UNIVERSITY OF SUSSEX

University of Sussex Business School

This is to certify that

Yohko Kikuchi

successfully completed an International Business Game on '**Business Strategy Simulation with Edumundo**'

as part of the **Global Classroom Series** collaboration between the course **International Business Strategy** taught by **Dr. Makafui Kwame Kumodzie-Dussey** at the **University of Sussex**

and the course **Private Equity Risk Management & Due Diligence Lab** taught by **Prof. Simona Zambelli** at the **University of Florence**

From 21 February to 28 March 2025

Professor Robin Banerjee
Pro-Vice-Chancellor (Global & Civic Engagement)
University of Sussex

図 1 シミュレーションゲームの証書

生活について

サセックス大学には複数の学生寮があり、各寮によって設備や家賃が異なります。特に、トイレやシャワーの有無（共用か専有か）によって快適さや価格に差があり、学生のニーズに応じて選ぶことができます。私は大学内にある Lewes Court という寮に滞在しました。共用スペースとしてはキッチンがあり、4 人のフラットメイト（イギリス人、イラン人、マレーシア人、中国人）と一緒に生活をしていました。キッチンには冷蔵庫、ストーブ、電子レンジ、

オーブン、トースター、電気ケトルなどが完備されており、調理に不便はありませんでした。ただし、食器や調理器具は各自で用意する必要があったため、到着後すぐに近くのスーパーマーケットで購入しました。多国籍のフラットメイトとの生活は、食文化や生活習慣の違いを肌で感じる良い機会となりました。

大学のキャンパス内には、小さなカフェテリアやバーがいくつかあり、気軽に軽食や飲み物を楽しむことができます。また、Co-op という小型スーパーマーケット、ファーマシー（薬局）、ジム、体育館、テニスコートといった施設も整っており、日常生活に必要なものは基本的にキャンパス内で揃います。さらに、キャンパス内を通る路線バスもあり、市内への移動も便利です。

一方で、Co-op はやや価格が高めであるため、普段の買い物はバスで街の中心部まで出かけ、Aldi や Sainsbury's などの大型スーパーでまとめ買いをするようにしていました。また、現地にはアジア系のスーパーもあり、醤油や味噌などの日本の調味料を手に入れることもできました。

また、大学には非常に多くの Society（学生団体）があり、映画鑑賞やスポーツ、ボードゲーム、国際交流など、興味に応じて気軽に参加することができました。授業以外でも学生同士が交流できる機会が多く、大学生活を楽しめる環境が整っていると感じました。

特に印象的だったのは、学期が始まる前の Welcome Week です。この期間中は新入生が友達を作り、大学生活にスムーズに適応できるよう、さまざまなイベントやキャンパスツアーが行われました。学生主導の雰囲気が強く、日本の大学とは異なる、学生同士のつながりを重視する文化がとても新鮮で、開始早々に多くの知り合いを作ることができました。

Brighton は海に近い街としても知られており、休日にはビーチへ足を運び、

海辺でリラックスしたり、友人とピクニックを楽しんだりすることができました。市内中心部にはカフェやマーケット、個性的なショップも多く、散策しているだけでも楽しい街です。大学の裏手にはStanmer Parkという広大な自然公園が広がっており、犬の散歩やハイキングを楽しむ人々の姿が見られる、自然豊かな環境も魅力の一つでした。

交通手段としては、主にバスと鉄道を利用していました。バスには学生専用の割引運賃があり、24時間使い放題のチケットは1日あたり4.4ポンドで利用できるため便利です。片道だと3ポンド前後かかるため、まとめて移動する場合は一日券が経済的でした。鉄道は日本と異なり、「ピークタイム（混雑時間帯)」と「オフピークタイム」で料金が異なる仕組みとなっています。

さらに、留学中に参加した地域イベントの一つであるBurning the Clocksも忘れられない思い出です。このイベントは、毎年冬至の日にBrightonで開催されるユニークな伝統行事で、地域住民が手作りの紙と柳のランタンを持ち寄り、街中をパレードした後、それらをビーチの大きな焚火にくべて一年の終わりを象徴的に見送るものです。私は大学の代表としてこのパレードに参加する機会をいただき、地元の人々と共に灯りを掲げながら練り歩きました。華やかで幻想的な光景と、人々の温かな一体感に包まれたこの体験は、イギリス文化の奥深さを肌で感じる貴重な機会となりました。

図 2寮の外観

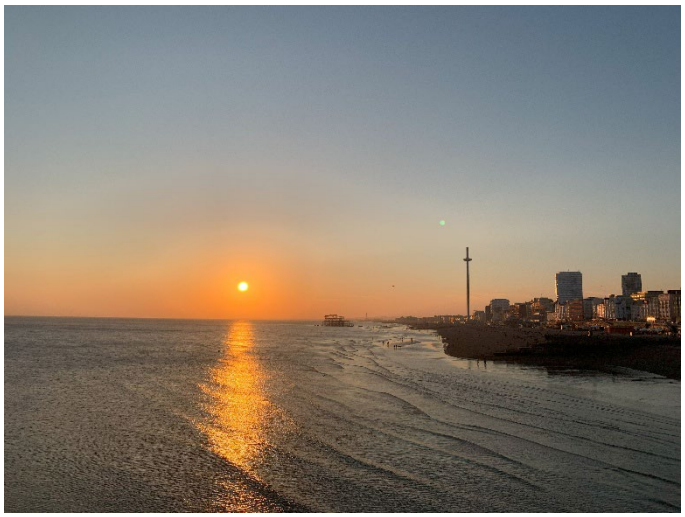


図 3 Brighton のビーチ

Burning the Clocks の様子

ボランティア活動について

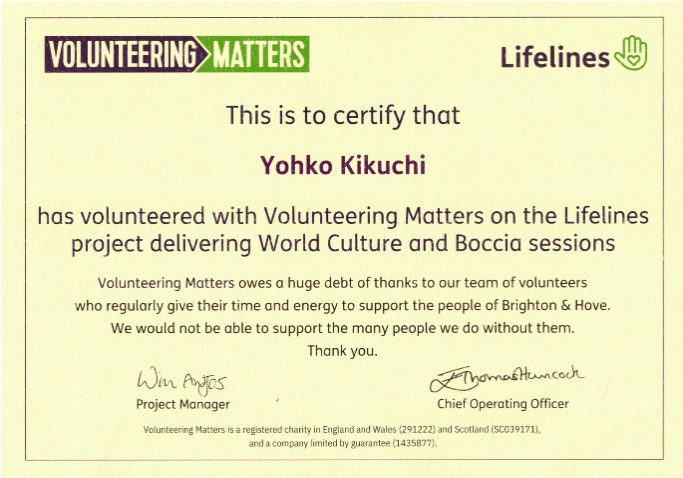
留学中は、学業と並行して現地のボランティア活動にも積極的に参加しました。社会に貢献しながら、地域の人々と交流し、英語を実践的に使う機会を得ることができたことは、非常に貴重な経験となりました。特に参加したのは、「Lifelines」と「Rotaract Club」の 2 つの団体です。

「Lifelines」は、イギリス全土でボランティア事業を展開する「Volunteering Matters」が運営する地域団体で、Brighton & Hove において主に 50 歳以上の高齢者を対象に、心身の健康促進や社会的孤立の解消を目的とした様々なグループ活動を行っています。私はその中で、「World Culture」と「Boccia（ボッチャ)」という 2 つの活動に参加しました。「World Culture」では、各国から来た留学生が自国の文化や暮らしを紹介し、高齢者と異文化交流を図る内容です。過去に日本についてのセッションが行われていたから、今回私は中国セッションの企画と運営を担当し、中国出身の学生と協力し、異なる老人ホームで計 3 回のセッションを実施しました。プレゼンテー

ションでは中国の文化や行事を紹介し、伝統的なパズル「魯班鎖」を実際に体験してもらいました。高齢者の方々に笑顔を届け、新しい知識を得るだけでなく、世代や文化を超えたつながりを実感していただけたことがとても嬉しく、大きなやりがいを感じました。

また「Boccia（ボッチャ)」では、主にゲームの進行サポートを担当しました。高齢者の方々がスムーズに競技を楽しめるよう、ボールを運んだり、配ったり、得点を計算したりする役割を担いました。ゲームの合間には自然と会話が生まれ、参加者の笑顔や笑い声が響く温かな雰囲気の中で、誰もが安心して楽しめる場づくりに貢献できたことにやりがいを感じました。

「Rotaract Club」は、地域の若者が主体となって社会貢献活動を行う団体で、国際的なRotary Clubと連携してチャリティ活動やイベントの企画・運営を担っています。特に印象に残っているのは、「The Big Help Out」という地域イベントへの参加です。これは、地元住民にボランティア活動や慈善団体の存在を知ってもらい、地域参加を促進することを目的に開催されたファミリー向けの一大イベントで、音楽、フード屋台、ワークショップなどが開かれました。私は事前にパンフレットを地域に配布する広報活動を行い、当日はChildren's Activity Areaにて、子どもたちと一緒に簡単なゲームをしながら募金活動を行いました。たくさんの子どもたちやその家族と触れ合う中で、笑顔と会話が自然に生まれ、ボランティア活動の楽しさと意義を改めて実感しました。地域に根差した活動に自ら参加することで、コミュニティとのつながりを実感することができました。



VOLUNTEERING MATTERS　Lifelines

This is to certify that

Yohko Kikuchi

has volunteered with Volunteering Matters on the Lifelines project delivering World Culture and Boccia sessions

Volunteering Matters owes a huge debt of thanks to our team of volunteers who regularly give their time and energy to support the people of Brighton & Hove. We would not be able to support the many people we do without them.

Thank you.

Project Manager　Chief Operating Officer

Volunteering Matters is a registered charity in England and Wales (291222) and Scotland (SC039171), and a company limited by guarantee (1435877).

図 4 Lifelines の証書

Lifelines のニュースレター

図 5 Big Help Out で子供とゲーム

The Big Help Out の様子

留学での学び

今回の留学を通じて、私は「多様性を受け入れ、異なる価値観の中で主体的に行動する力」を身につけることができました。授業では、様々な国籍・バックグラウンドを持つ学生たちとディスカッションやグループワークを行い、自

分とは異なる視点や考え方に日常的に触れることができました。

また、生活面やボランティア活動を通して、自ら積極的に関わり、環境を自分の手で良くしていくという姿勢の大切さを学びました。初めは言語や文化の違いに戸惑うこともありましたが、自分から話しかけたり、行動を起こすことで、多くの出会いや学びの機会を得ることができました。

おわりに

この留学は、私にとってかけがえのない経験となりました。異文化の中での学びや人との出会いを通じて、自分の視野が大きく広がり、今後の人生においても大切にしたい価値観を多く得ることができました。こうした貴重な機会を得ることができたのは、国際経営学部によるご支援のおかげです。心より感謝申し上げます。また、渡航前から現地での生活に至るまで支えてくださった大学関係者、現地で出会った多くの方々にも、深く御礼申し上げます。今後はこの経験を活かし、グローバルな視点を持ちつつも、地域や社会に具体的な貢献ができる人材を目指して努力してまいります。